

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	環境計画論 (Environmental Planning )		授業コード	L010551
担当教員名	池畑 義人、杉浦 嘉雄		科目ナンバリングコード	L20105
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	コース選択必修 環境・地域コース 選択 建築コース インテリアデザインコース	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	環境・地域創生コースの学生は選択必修なので、履修して下さい。 「プロジェクト1」、「プロジェクト実習1」、「森里海連環学と地球的課題」および「流域生態論」を履修していることが望ましいです。			
受講心得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語は他の人の迷惑になるので、絶対にしないでください。</li> <li>・予習と復習を欠かさないようにしてください。</li> </ul>			
教科書				
参考文献及び指定図書	『生物多石井一郎・湯沢昭編著、環境計画総論、鹿島出版会、2730円 様性入門』鷺谷いづみ著(岩波ブックレット) 『生態系を蘇らせる』鷺谷いづみ著(NHKブックス) 『自然再生～持続可能な生態系のために～』鷺谷いづみ著(中公新書)			
関連科目	プロジェクト1 プロジェクト実習1 森里海連環学と地球的課題 流域生態論 地域経済論 地域再生論			

授業の目的	現代のまちづくりの計画では、環境への配慮を欠かさずわけにはいきません。しかし、環境の配慮だけを重視しても社会の発展は望めません。バランスがとれたまちづくりのためには、開発と環境の関係を知る必要があります。この講義では、まちづくりと環境の関係について学習します。
授業の概要	この講義では、環境再生・修復のための技術を紹介し、その実現のために必要な関連法規について学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：公害問題と地球環境問題(池畑)</b> この講義のガイダンスを実施すると共に、国土開発行為にともなって発生した公害問題について解説します。	ワークシートの復習
<b>第2週：日常生活における環境問題(池畑)</b> 私達の日常生活でも、開発行為に伴う環境問題は発生しています。これらの環境問題について解説します。	ワークシートの復習
<b>第3週：環境に関する基本的な法規</b> 開発行為をすすめながら自然環境を維持・保全するためには法的な拘束が必要となる。この講義では、公害防止法に始まる我が国における環境関連法規の成立について解説する。	ワークシートの復習
<b>第4週：生物多様性と生態系ネットワーク(杉浦)</b> 地球の生物多様性の喪失は、危機的状況となりつつあります。そして、それを回復するには局地的な生態系の回復ではなく、広域的な生態系ネットワークの構築の構築が不可欠です。この講義では、生物多様性と生態系ネットワークの関連について解説します。	ワークシートの復習
<b>第5週：生態系ネットワーク構築を実施するための手順(杉浦)</b> 前回の講義で、生態系ネットワークの構築は生物多様性を維持するために必要不可欠であることがわかりました。この講義では、それを維持するための手順について解説します。	ワークシートの復習

<p><b>第6週：生態系ネットワークに関連する法律1(杉浦)</b></p> <p>生態系ネットワークを回復、維持するためには開発行為に対する法的な抑制が必要です。この講義では、法的な手段として以下の法律について解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 環境基本法</li> <li>② 生物多様性基本法</li> <li>③ 鳥獣保護法</li> <li>④ 種の保存法</li> <li>⑤ 特定外来生物法</li> </ul>	ワークシートの復習						
<p><b>第7週：生態系ネットワークに関連する法律2(杉浦)</b></p> <p>生態系ネットワークを回復、維持するためには開発行為に対する法的な抑制が必要です。この講義では、前回に引き続き、法的な手段として以下の法律について解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然再生推進法</li> <li>② 環境教育推進法</li> <li>③ 食料・農業・農村基本法</li> <li>④ 土地改良法</li> <li>⑤ 都市緑化法</li> <li>⑥ 都市公園法</li> </ul>	ワークシートの復習						
<p><b>第8週：生態系ネットワークに関連する条約(杉浦)</b></p> <p>生態系ネットワークを回復、維持するためには開発行為に対する法的な抑制が必要です。この講義では、前回に引き続き、法的な手段として以下の法律について解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生物多様性条約</li> <li>② ラムサール条約</li> <li>③ ワシントン条約</li> <li>④ 世界遺産条約</li> <li>⑤ 気候変動枠組み条約</li> </ul>	ワークシートの復習						
<p><b>第9週：リサイクルと循環型社会(池畑)</b></p> <p>限られた資源を有効に利用するには、リサイクルが必要不可欠です。この講義では、リサイクルの意義と共に、再利用(Reuse)、圧縮(Reduce)、再循環(Recycle)について解説します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第10週：建設副産物のリサイクル(池畑)</b></p> <p>日常生活では浸透してきたリサイクルですが、建設業界でもリサイクルの取り組みは進んでいます。この講義では、コンクリートや木材などの建設副産物のリサイクルについて解説します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第11週：自然再生技術(池畑)</b></p> <p>失われた自然の復元は容易ではありませんが、それでも多くの取り組みがなされています。この講義では、自然の再生について、その失敗例も交えて解説します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第12週：景観形成の技術(池畑)</b></p> <p>近年、都市開発において景観の形成は重要な要素となっています。この講義では、景観形成について道路計画、都市計画の視点から解説します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第13週：環境アセスメント(池畑)</b></p> <p>開発行為によって、対象地域の希少な生物や文化財が失われてきました。私たちは、このような失敗を繰り返さないために、開発行為の前に事前の調査をすることが義務づけられており、これを環境アセスメントといいます。この講義では、環境アセスメントの定義から、その手法についてまで、解説します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第14週：都市地域における環境計画の事例(杉浦)</b></p> <p>これからの都市計画では、環境の配慮と利便性の両立が求められます。この講義では、環境に配慮した都市計画の例を紹介します。</p>	ワークシートの復習						
<p><b>第15週：課題の発表</b></p> <p>講義の最初に提示した環境問題に関するレポートについて発表を行う。そのレポートについて受講者は相互評価をする。</p>	相互評価						
<p><b>第16週：期末試験</b></p>							
<p><b>授業の運営方法</b></p>	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「アクティブ・ラーニング科目」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」						

地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自然環境を維持する法制度などのシステムについて関心を示し、それらについて意欲を持って学修に取り組む。
【知識・理解】	持続可能な環境の整備のために必要な知識を獲得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	最終課題において、持続可能な環境の整備に必要な提案をすることができ、自分の提案を他者にわかりやすく伝えることができる。
【思考・判断・創造】	これまで未解決の環境問題を解決するための提案ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点	10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の授業でワークシートが配付される。14回のワークシートで各3点の配点とする。 評価方法は担当教員により異なるが、大まかには以下の通りである。 [3点] ワークシートの空欄が全て正解で埋められている。 [2点] ワークシートの空欄の一部が間違っているが、すべて埋められている。 [1点] ワークシートが一部しか埋まっておらず、ほとんどが間違っている。
発表・その他(無形成果)	15回目の講義でA3の資料一枚の発表資料を用いて、自ら調べた課題についてプレゼンテーションを行う